

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度よりも全国平均を上回る数値が上昇した。
- ・昨年度課題であった記述の設問について、目標値を10割ほど上回った。
- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」全ての観点で目標値を上回った。

(2) 課題

- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと聞くこと」については、各学年ともに概ね目標値と同程度にとどまっている。
- ・どの学年も記述式の設問に対し、無回答、短答の割合が1割～3割程度いる。書くことへの苦手意識、理解不足が課題となっている。また、言語理解や表現を課題とする児童がどの学年にも1割程度いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全国の平均値を1.9割上回った。		
第5学年	全国の平均値を3.2割上回った。	全国の平均値を1.6割上回った。 (第4学年時)	
第6学年	全国の平均値を9.2割上回った。	全国の平均値を6.9割上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を7.0割上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を2.9割上回っている。概ね、どの領域でも目標値を5割上回っているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は0.2割しか上回っていない。	目標値を10.1割上回っている。どの領域でも目標値を達成している。	目標値を8.7割上回っている。どの領域でも目標値を達成している。

② 5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を1.4割上回った。ただし、「漢字を正しく書くこと」「連用修飾語の理解」については、目標値よりも10割以上上回っているため、漢字や言葉の知識・理解	目標値を5.7割上回った。特に、「自分の考えを明確にして文章を書くこと」については「中心となる語を見付けて要約すること」については、目標値よりも16割	目標値を5.1割上回った。特に記述問題の「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くこと」については、目標値よりも16割も上回

については課題が残る。	上回っている。昨年度よりも目標値を上回っており、学習成果が上がっていることが分かる。無回答の児童や誤答の児童も3割程度いる問題もあり、課題があるといえる。	っていて、昨年度と比べて、記述形式への回答率も上がり、学習の成果が上がっていることが分かる。しかし、一方で無回答の児童が2割程度いることも課題として挙げられる。
-------------	---	--

③ 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を 8.5 割上回った。「漢字の由来の理解」については、目標値を 7.3 割下回ったが、それ以外は 5 割以上目標値を上回っているものか目標値と同等の結果となり、これまでの知識・技能が身につけているといえる。	目標値を 10.8 割上回った。ただし、「文章全体の構成を捉えること」「自分の意見とその理由を明確にして書くこと」については、18 割上回っている。ほとんどの設問で 10 割以上上回っているため、学習成果が上がっていることが分かる。	目標値を 10.4 割上回った。短文での記述式の回答では、目標値を 10 割近く上回っている。しかし、一方で、無回答や誤答の児童が 3 割程度いる。また、「指定された長さで文章を書くこと」については、目標値と同等の正答率であり、課題があるといえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 音読や詩の暗唱などの活動を通して、言葉に親しむ経験を積み重ねる。 - 助詞や拗音、長音等の言葉のきまりについて、プリントなどを活用して繰り返し練習し、定着を図る。 - 多層指導モデル M I M の読みのアセスメントを行い、必要に応じて個別指導を行う。	- 自分の思いや考えを明確にすることを大切にして「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導を行う。 - スピーチや、ペアや小グループでの話し合いなどを行い、話す機会を意図的に設定する。 - 話型や書く順序を提示することで、思いや考えを具体的に表現できるようにする。	言葉のよさを感じられるように、読書に親しむ機会や仲間と話し合い、思いや考えを伝える機会を意図的に設定する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 漢字を読む、書くなどの繰り返し練習をし、基礎的な学習内容の定着を図る。 - 朝学習での読書の時間や家庭学習で取り組む読書などを通して、言葉の特徴や使い方を学ぶ。	- 登場人物の様子について、叙述を基に捉えられるよう、学習場面で書く機会を意図的に設定して習熟を図る。 - 書く内容の中心を明確にし、文章の構成を意識して、書くことができるような指導を行う。 - 話し手が伝えたいことの中心を捉えて、必要なことをメモしながら聞く指導を行う。	- 自分の考えを明確に言葉で表現することを意図的に指導する。 - ペアや小グループなどで話し合っって考えを共有することや、文章で書いた考えを交流する活動を設定し、自分の思いや考えをすすんで伝えるようにしていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・前年度までの漢字の復習や各学期のまとめテスト、漢字検定に向けて、ICTを活用させ、繰り返し練習する機会を増やす。 ・言葉の理解については、日頃から意味調べや、文作りなどを取り入れる。	・相手や目的を明確に示し、聞き手や読み手に対して分かりやすく、説得力のある文章を書いたり、話したりするような単元を構成する。 ・相互評価や異学年への発表する機会を積極的に設ける。	・考えを表現したり、まとめたりすることを取り入れていく。 ・例文や見本を見せ、短文でも文章で自分の考えを書くことや、伝えたいことを聞き取って文章化させることなど、個別に支援しながら苦手な児童も前向きに取り組むことができるよう支援する。

4 重点指導事項

- 漢字の定着のため、ICT 機器やプリントを活用して繰り返し練習させる。また、言葉の特徴や使い方などの理解を深めるため、音読や詩の暗唱、意味調べなど、言葉に親しむ機会や言葉に着目させる機会を増やす。(知識・技能)
- 自分の考えやそれを支える理由、事例との関係等を明確にして文章に書き表す機会を増やす。(思考・判断・表現)
- 言葉のよさを感じられるように、読書に親しむ機会や、相手や目的をもって思いや考えを伝える機会を意図的に設定する。自分の考えを文字言語でまとめる際には内容を具体的に例示したり、手本を示したりして、前向きに書くことに取り組むことができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)